

第4段階 ガリラヤの大宣教

E. 十二使徒の任命と山上の教え

14. 山上の教え、第13部:

の権威ある言葉の確かな基盤

デイリージーザスニュース #080

基本テキスト: MT 7.124-29 (並行テキスト: ルカ6.47-49)

24 」それゆえ、わたしのもとに来る人、^{すなわち}、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行なう人がどんな人であるか、あなたがたに示しましょう。その人は、地を深く掘って岩の上に自分の家を建てた賢い人のようです。25 ^{MT}雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を打ちました。洪水が^来ても、激流がその家を襲つても、搖るがすことではなく、倒れることもありませんでした。その土台が岩の上にしっかりと据えられていたからです。

26 しかし、わたしのこれらの言葉を聞いてもそれを行わない者は皆、土台なしに砂の上に自分の家を建てた愚かな人に似ています。27 ^{MT}雨が降り、川の水位が上昇し、風が吹いてその家を打ちつけ、そして^L激流がその家を襲うと、^{MT}家は大きな音を立てて崩壊し、^L家は完全に破壊されました。

28 イエスがこれらのことと語り終えられると、群衆はその教えに非常に驚いた。29 イエスは律法学者たちのようにではなく、権威ある者のように教えておられたからである。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルーク = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤の斜体で表記されています**。旧約聖書からの引用は大文字で表記されています。

コンテキストダイジェスト

位置	ガリラヤの山で
タイムライン	西暦31年5月（第16月）
イエスの生涯	第4段階: ガリラヤの大宣教
	E. 十二使徒の任命と「山上の教え」
タイトル	14. 山上の教え、第13部 の権威ある言葉の確かな基盤

第4段階 ガリラヤの大宣教

コメント：

今日の朗読では、イエスは「山上の教え」を、忘れられない例え話で表現された、神の権威についてのもう一つの説得力のある宣言で締めくくられました。このよく知られた言葉は、神の子としてのイエスの独自性に対する意識と共に鳴っています。この言葉は、前の節にある狭い門を「入れ」というイエスの命令に究極の警告を加えています。この言葉から、イエスがガリラヤの山上で群衆と一緒にいるという直接的な状況を通して、すべての人々に語りかけていたことが再びわかります。

マタイとルカが山上の教えをまとめたものは単なる要約であり、おそらくその日にイエスが実際に語ったことの10パーセントにも満たないであろうことに注意すべきです。どうしてそれがわかるのでしょうか。マタイ5-7章を声に出して読んでみてください。15分から20分ほどかかります。イエスは山上で3時間から4時間、おそらくそれ以上話しました。したがって、この教えの書かれた内容は、実際に話されたことのほんの一部です。しかし、そこには、イエスが十二使徒を任命した重要な日に伝えられた最も重要な真理の核心が含まれています。

イエスは次のように始められました。「わたしのもとに来る人がどのような人であるか、あなたに示しましょう。わたしのこれらの言葉を聞いて、実際にそれを実行する人です。その人は賢い人のようです...」イエスの言う「賢い人」とは、次の3つのことを行うことがわかります。(1)イエスのもとに来る、(2)イエスの言葉を聞き続ける、(3)イエスの言葉に従ってそれを実践する。

私たちはイエスを信じることでイエスのもとに「来」ます。これが救いです。私たちはイエスの生涯と教えを毎日読み、絶えず默想することでイエスの言葉を「聞き続ける」のです。これがイエスを学ぶことです。そして、イエスの命令に従うことでイエスの言葉を実践します。これが私たちが聖化」と呼ぶ、イエスの似姿に変わる過程です。これら3つの行為はすべて、「イエス」の目に賢い」と見なされるために必要です。

逆に、「愚かな人」はイエスの言葉を聞き続けるが、決してそれを実践しない。そのような人はイエスについての事実の知識を得るかもしれないが、イエスのようになるための変化の過程がない。愚かな人は信仰によってイエスのもとに来ず、自分の人生をイエスの支配と保護に委ねることがないから、これは真実である。彼らは仮説レベルではイエスの教えの多くに原則的に同意するかもしれないが、イエスが言ったことに従っていない。

の言葉に従うという堅固な基礎の上に人生を築きます。愚かな人はイエスに従わないことを選び、その結果、流砂の上に人生を築きます。

イエスは、激しい嵐が来ることを想定していました。私たちは皆、人生で苦しみや試練に直面します。嵐が襲ってくるのは時間の問題です。魂をしっかりと支える錨だけが、人生の嵐の中でも人を繁栄させ、成長させます。その岩がイエスです。

しかし、この人生の嵐は、最後の審判、つまりイエスが話していた本当の「嵐」に比べれば小さなものです。私たちの全生涯の考え方、言葉、行いは、神の完全な意志の基準に従って吟味されます。すべての罪が明らかにされます。完全な正義だけが審判の激流を生き残ります。しかし、イエスのもとに来て、イエスに耳を傾け、イエスの言葉に従った人々は、何も恐れることはできません。なぜなら、彼らは岩、つまりイエスご自身の上に人生を築いたからです。

第4段階 ガリラヤの大宣教

イエスのこの最後の例え話と警告は、イエスの権威を強調しました。本文中のいくつかのことがこの強調に加わっています。まず、イエスが話し終えたとき、人々は皆イエスの権威について話していました。イエスが持っていたような自信をもって話す人を聞いたことがありませんでした。イエスは、聖書よりも自分の言葉の権威を優先することを恐れませんでした。

さらに、イエスは自分の言葉がすべての人々の永遠の運命を決定するのに十分な権威を持っていると信じていました。それを聞いて従うことで永遠の命が与えられ、それを実践しなければ永遠の破滅がもたらされました。それはそれほど単純で、イエスの権威はそれほど決定的でした。イエスの言葉は真剣です。

イエス自身の言葉の権威に関するこの見解は、イエスのもう一つの神聖な主張でした。イエスは復活後、次のように述べました。」天と地のすべての権威（力）はわたしに与えられている。」（マタイ 28.16）。これは絶対的で無限の権威です。なぜなら、宇宙の何ものもイエスの支配から逃れられないからです。神だけがこの主張をすることができます。だからこそ、イエスのもとに来て、イエスの言葉に従いながらイエスに耳を傾けることが、神の王国における永遠の命の確実で揺るぎない基盤となるのです。

応用：

の権威ある言葉の確かな根拠に対して神に感謝し、賛美することは、神の言葉を聞いたときの最初の適切な応答です。私たちは心からほとばしる絶え間ない賛美と感謝をもって神に従います。

イエスの教えのどの側面にもっと注意深く耳を傾ける必要がありますか。今日、あなたはイエスにどのような新しい従順の表現を示すことができますか。